

作成日：2013 年 03 月 25 日

改訂日：2025 年 03 月 18 日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

1. 1 製品特定名 : ROD, PLT-PEEK(NC) [丸棒、板]
1. 2 製品の推奨用途と使用上の制限
 - (1) 推奨用途
電気・電子の製造装置、工業用途の装置部品用材料など
 - (2) 使用上の制限
医療用途、体内埋め込み用途には使用しないこと。
食品接触用途に使用される場合は、その具体的用途および使用方法について、必ず事前にご相談下さい。
1. 3 供給者の詳細
 - (1) 会社名 : 東レプラスチック精工株式会社
 - (2) 住所 : 〒103-0021
東京都中央区日本橋本石町4丁目6番7号 日本橋日銀通りビル3階
 - (3) 担当部署 : 押出営業部
 - (4) 電話番号・FAX番号 :

東京押出販売課	TEL:03-3241-6816	FAX:03-3270-5247
大阪押出販売課	TEL:06-6443-9296	FAX:06-6448-0372
名古屋押出販売課	TEL:052-581-1516	FAX:052-581-1839
海外押出販売課	TEL: 03-3241-6816	FAX:03-3270-5247

2. 危険有害性の要約

2. 1 化学物質または混合物の GHS 分類
本製品は、成形品（アーティクル）であり、GHS 分類の対象外です。
2. 2 GHS 分類に該当しない他の危険有害性
この製品の乾燥・加熱に際して、揮発分が放出され、目、鼻、喉が刺激されることがあります。これらの熱処理中は適切な局所排気を行なって下さい。
製品の角による切傷及び落下による挫傷の恐れがあります。
この樹脂が床にこぼれたら、滑らないようにすぐに清掃して下さい。
荷崩れの起こる可能性がありますので、製品の積み上げ方にご留意下さい。
2. 3 重要な徴候および想定される非常事態の概要
特になし

3. 組成、成分情報

3. 1 化学物質・混合物の区分 : 成形品（アーティクル）
3. 2 化学名（一般名） : ポリエーテルエーテルケトン
3. 3 別名（通称、略称） : PEEK樹脂
3. 4 組成・成分情報
 - (1) 主成分

化学名	: ポリエーテルエーテルケトン（PEEK樹脂）
含有量（%）	: PEEK樹脂≥99%
CAS No.	: 29658-26-2

化審法番号 : 7-2144
安衛法番号 : 10-812

4. 応急措置

4. 1 必要な応急措置の説明

- (1) 吸入した場合 : 樹脂の熔融時に発生するガスを吸入して気分が悪くなった場合には空気の清浄な場所へ移動し、回復を待って下さい。回復しない場合には、医師の診断を受けて下さい。通常では該当しませんが、熱分解による発生ガスを吸入した場合は、直ちに新鮮な空気の場所へ移動し、回復を待って下さい。回復しない場合には、医師の診断を受けて下さい。サンディング、研磨あるいは切断等の加工時に発生する粉塵を大量に吸入したことによって、咳や胸苦しさ等の呼吸器系の症状が生じた場合には、直ちに空気の清浄な場所へ移動して下さい。呼吸困難の場合には酸素を与え、直ちに医師の診断を受けて下さい。
- (2) 皮膚に付着した場合 : 粉塵が付着した場合には石鹼と流水で十分に洗い流して下さい。熔融物が付着した場合には、直ちに清浄な水で冷却して下さい。皮膚の上で固まった樹脂は無理に剥がさず、十分に冷却させてから速やかに医師の診断を受けて下さい。
- (3) 眼に入った場合 : 速やかに流水にて数分間の洗浄を行って下さい。眼をこすらないで下さい。洗眼は瞼を指で開いて行なって下さい。刺激等の異常が認められる場合には眼科医の診断を受けて下さい。
- (4) 飲み込んだ場合 : 気分が悪い時は医師の診断/手当を受けて下さい。口をすすぐこと。きるだけ吐き出し、意識のある場合は、水をコップ 1-2 杯飲ませた上で、指を喉に差し込んで吐き出して下さい。

4. 2 最も重要な急性症状および遅発性症状

特になし

4. 3 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

熔融物、高温物を除去する場合は、保護手袋を着用して下さい。

5. 火災時の措置

5. 1 適切な消火剤および使ってはならない消火剤

- (1) 適切な消火剤 : 霧状水、噴流水、泡、粉末、炭酸ガス
(2) 使ってはならない消火剤 : 知見なし

5. 2 特有の消火方法

安全な距離から散水冷却して周囲の設備を保護して下さい。

周辺火災の場合で移動可能な製品等は、安全に行なえる場合に限り火災場所から搬出して下さい。移動不可能の場合には、製品等に注水して冷却して下さい。

消火作業は、離れた風上から行って下さい。関係者以外は安全な場所に退去させて下さい。

5. 3 消火を行う者の保護

消火作業従事者は必ず呼吸保護具と適切な保護具を着用して下さい。

6. 漏出時の措置

6. 1 人体に対する注意事項、保護具、および緊急時措置

機械加工時の切削屑や切粉を床にこぼした場合は、転倒の恐れがあるため集めて処

分する。(廃棄方法は廃棄上の注意に従って行う)

- 6. 2 環境に対する注意事項
細かい切り屑や切粉は、海洋生物、鳥類が摂取して死亡するのを防止するため、全て回収して下さい。
- 6. 3 封じ込みと洗浄のための方法及び機材
粉塵が飛散しないようにする。注意してかき集め、除去する。
- 6. 4 二次災害の防止策
付近の着火源となるものを取り除くこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

7. 1 安全な取り扱いのための注意事項

(1) 技術的な対策

A. 取扱者の暴露防止 :

粉塵／ガス／フュームを吸入しないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
指定された場所以外では、飲食、喫煙を行わないこと。

B. 火災・爆発の防止 :

近くで火気をみだりに使用しない。
樹脂は静電気を帯びやすいので、必要に応じ静電気除去の対策をとる。
成形や二次加工時に粉塵が発生した場合には、粉塵爆発に対する予防措置を講ずること。

(2) 局所換気・全体換気 :

加工時、溶融時に発生するガスおよびフュームを吸入しないようにする。
溶融時には加熱によって発生するガスを排出するため、有効な局所排気設備を設置する。

(3) 注意事項 :

機械加工時、加工速度を極端に早くすると、製品が割れて飛散したり、加工面が溶融する可能性がありますので適切な条件で加工して下さい。もし溶融した場合は直接触れないで下さい。

(4) 安全取扱い注意事項 :

製品を運搬する時は滑り易いので滑り止めの付いた手袋を着用し安全靴を必ず履いて下さい。

A. 製品を一度に多量運搬する時には重量負荷を低減させる目的で、できるだけ助力装置を使用して下さい。

B. 製品を投げたり、落下させると割れて飛散する可能性がありますので、丁寧に取扱い願います。

C. 製品のエッジ部で手を切り怪我をする恐れがありますので、滑り止めの付いた手袋を着用して下さい。

(5) 適切な衛生対策 :

食べ物、飲み物を持ち込まないこと。
作業中の飲食、喫煙禁止。

7. 2 混触危険性を含む、安全な保管条件

(1) 技術的な対策 : 特に必要なし

(2) 適切な保管条件 : 消防法、市町村条例に従って取り扱い、保管する。

(3) 避けるべき保管条件 : 火気注意。熱源、スチーム源、直射日光から離して冷所で保管する。反りやすいため、棚に水平に保管する。

(4) 安全な容器包装材料 : 特に必要なし

8. 暴露防止及び保護措置

8. 1 管理パラメーター

- (1) 管理濃度 : 管理濃度は設定されていない。
- (2) 許容濃度 : 日本産業衛生学会、ACGIH(米国政府産業衛生専門家会議)はともに、PEEK樹脂の粉塵に関する許容濃度は定めていませんが、一般的に次の値を運用するのが妥当と考えられます。
 - 日本産業衛生学会勧告値(2024) 第3種粉塵
 - 時間荷重平均値 : 吸入性粉塵 2mg/m³、総粉塵 : 8mg/m³
 - ACGIH勧告値(2021) 一般粉塵
 - 時間荷重平均値 : 吸入性粉塵 3mg/m³、総粉塵 10mg/m³

8. 2 適切な設備対策

加工時に発生するガスや粉塵を除去するために局所排気の設置をして下さい。

8. 3 個人保護具

- (1) 呼吸器用の保護具 :
 - 粉体の場合は防塵マスク、ガスの場合は有機ガスマスク、機械加工、サンディング等の粉塵の発生する作業のときは、防塵マスクを着用して下さい。
- (2) 手の保護具 :
 - 通常室温で取り扱う場合は、清潔な皮手袋等を着用する。
 - 高温の樹脂を取り扱う場合、取り扱う温度に適した耐熱手袋を着用する。
 - 切削作業や鋭角な成形品を取り扱う場合、耐切削手袋を着用する。
- (3) 眼の保護 :
 - 保護眼鏡または安全ゴーグルを着用すること。
- (4) 皮膚及び身体の保護具
 - 通常の取り扱いでは清潔な長袖作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

9. 1 基本的な物性的及び化学的性質に関する情報

- (1) 外観
 - A. 物理的状态 : 丸棒・板状固体物
 - B. 色 : ベージュ
- (2) 臭気 : 常温ではなし
- (3) 臭気の閾値 : データなし
- (4) 融点/凝固点 : 340℃
- (5) 沸点、初留及び沸騰範囲 : 対象外
- (6) 可燃性(固体、気体) : 空気中で可燃性粉塵濃度になるおそれがある。
この製品は引火性ではない。
- (7) 可燃性(液体) : データなし
- (8) 燃焼/爆発範囲 : データなし
- (9) 引火点 : 対象外
- (10) 自然発火温度 : データなし
- (11) 分解温度 : > 430℃
長時間の暴露(ほぼ1時間)
- (12) pH : 対象外
- (13) 粘度 : データなし
- (14) 溶解度 : 水に対する溶解度: 無視できる程度
- (15) n-オクタノール/水分配係数(log 値) : 対象外
- (16) 蒸気圧 : 対象外

- (17) 比重 : 1.26~1.32
 - (18) 相対蒸気密度 : 対象外
 - (19) 粒子特性 : データなし
 - (20) 蒸気速度(酢酸ブチル=1) : データなし
- 9.2 その他情報
- (1) 粉塵燃焼インデックス(K_{st}) : 153 m.bar/s
 - (2) 粉塵圧力定数 : S_t1
 - (3) 最低点火エネルギー : 30~100mJ

10. 安定性及び反応性

- 10.1 反応性 :
一般的な保管、取扱いでは安定で反応性はありません。
- 10.2 化学的安定性 :
予期される通常の保管および取扱い条件において安定と考えられる。
- 10.3 危険有害反応可能性 :
予期される通常の保管および取扱い条件において安定と考えられる。
- 10.4 避けるべき条件 :
高温、直射日光、火気、熱源等は避けて下さい。(分解温度: >430℃)
- 10.5 混触危険物質 :
危険な反応の原因となる化学物質は知られていません。
- 10.6 有害な分解生成物 :
一酸化炭素、硫黄酸化物、炭化水素、フッ化水素、他の危険有害な分解生成物が発生する可能性がある

11. 有害性情報

- 11.1 急性毒性
- (1) 急性毒性(経口) : データなし
 - (2) 急性毒性(吸入) : データなし
 - (3) 急性毒性(経皮) : データなし
 - (4) 急性毒性(その他の経路) : データなし
- 11.2 皮膚腐食性/刺激性 : データなし
- 11.3 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : データなし
- 11.4 呼吸器感作性または皮膚感作性 : データなし
- 11.5 変異原性
- (1) in vitro 遺伝毒性 : データなし
 - (2) in vivo 遺伝毒性 : データなし
- 11.6 発がん性 : データなし
- 11.7 生殖毒性及び発生毒性
- (1) 生殖毒性/繁殖毒性 : データなし
 - (2) 発生毒性/催奇形性 : データなし
- 11.8 特定標的臓器毒性
- (1) 特定標的臓器(単回ばく露) : データなし
 - (2) 特定標的臓器(反復ばく露) : データなし
- 11.9 ヒトばく露事例 : データなし
- 11.10 誤えん有害性 : データなし
- 11.11 その他の注意事項 : 加工時に発生した粉塵は、OSHA及びACGIHで最大許容濃度、限界値が決められています。

- 1 1. 1 2 その他の情報 : 構成原料は樹脂の中に練りこまれているので体内で生体と接触しない可能性があるので、前述の健康影響を及ぼさない可能性もある。
健康への影響に対する危険性に関する記載は、経験や複数の成分の毒物学的特性に基づく。

1 2. 環境影響情報

1 2. 1 生体毒性

(1) 水環境

- A. 魚類に対する急性毒性 : データなし
- B. ミジンコ及び他の水生無脊椎動物に対する急性毒性 : データなし
- C. 水生植物に対する毒性 : データなし
- D. 微生物に対する毒性 : データなし
- E. 魚類に対する慢性毒性 : データなし
- F. ミジンコ及び他の水生無脊椎動物に対する慢性毒性 : データなし

1 2. 2 残留性・分解性

- (1) 非生物的分解 : データなし
- (2) 物理化学的及び光化学的分解性 : データなし
- (3) 生分解性 : データなし

1 2. 3 生体蓄積性

- (1) n-オクタノール／水分配係数(log値) : データなし
- (2) 生物濃縮因子(BCF) : データなし

1 2. 4 土壌中の移動性

- (1) 土壌吸着定数(Koc) : データなし
- (2) 環境中の分布 : データなし

1 2. 5 PBT及びvPvBの評価結果 : データなし

1 2. 6 他の有害影響 : データなし

1 3. 廃棄上の注意

- 1 3. 1 残余廃棄物 1 : 【廃棄物の処理及び清掃に関する法律】(廃掃法)の産業廃棄物、廃プラスチック類に該当します。廃掃法に従って産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体が処理を引き受けている場合は、地方自治体に委託して処理して下さい。
- 1 3. 2 残余廃棄物 2 : 焼却処分する場合は、管理された焼却設備を用いて、廃掃法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法に沿って処理処分して下さい。

1 4. 輸送上の注意

- 1 4. 1 国連番号、国連分類 : 該当しない
- 1 4. 2 国連出荷名 : 該当しない
- 1 4. 3 輸送時の危険性クラス : 該当しない
- 1 4. 4 容器等級 : 該当しない
- 1 4. 5 環境有害性 : 該当しない
- 1 4. 6 使用者のための特別予防措置 :
直射日光や風雨にさらされないようにカバーする。梱包袋が破れないように乱暴な扱いは避ける。もし破袋して製品が飛散した場合は、滑って転倒しないように注意する。
- 1 4. 7 MARPOL 73/78 付属 II および IBC Code によるバラ積輸送される液体物質 :

該当しない

- 14.8 輸送上の国内規制 : 陸上輸送、海上輸送、航空輸送ともに該当しない
- 14.9 輸送上の安全対策および条件 :
製品の破損がないように、投げたり落下させる等の乱暴な取扱いを行わないで下さい。高く積載するときは、荷崩れしないように取扱って下さい。
- 14.10 緊急時応急措置指針番号 : 該当しない

15. 適用法令

- 15.1 廃棄物処理法 : 廃プラスチック類
- 15.2 労働安全衛生法 : 通知対象物質 : 非該当
- 15.3 消防法 : 法第9条の3、危険物規制令別表第4 指定可燃物 : 合成樹脂類（発泡体以外） : (指定数量) 3000kg
- 15.4 労働安全衛生規則第594条の2 皮膚等障害化学物質 : 非該当
- 15.5 高圧ガス保安法 : 対象外

この製品に関する貴国の規制については、貴社の責任で調査願います。

16. その他の情報

- 16.1 最新版改定日と変更箇所
 - 2013年9月18日 第1版 全面改定
 - 2014年4月1日 会社名を変更
 - 2014年12月1日 住所変更による改訂
 - 2025年3月18日 3、8、9、10、11、12、15項改訂
- 16.2 引用文献
 - 「GHS 対応ガイドライン 製品安全データシート作成指針（改訂第2版）」、日本規格協会（日本化学工業協会編集）（2008）
 - 「化審法化学物質改訂第7版」、化学工業日報社（通産省監修）（2007）
 - 「15308の化学商品」、化学工業日報社（2008）
 - 「労働安全衛生法MSDS対象全データ（改訂第2版）－GHS対応」、化学工業日報社（2007）
 - 「樹脂ペレット流出防止マニュアル」、日本プラスチック工業連盟（1993）
- 16.3 責任の限定について
製品安全データシートは、当該製品を安全に取扱うための参考情報として、当該製品を扱う事業者提供されるものであって、安全を保証するものではありません。ここに記載された数値は、規格値や品質を保証する数値ではありません。
この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品（当該製品）に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。記載内容は当該製品の通常取扱いを前提として作成しています。特別な取扱いについては、用途、用法に応じた安全対策を施してご使用願います。

以上